キャラクター名
槇原　ちとせ

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ノイマン	ワークス	研究者	カヴァー	高校生
オプショナル	モルフェウス	年齢	17	性別	女
覚醒	犠牲	衝動	妄想	初期侵食率	36 %
出自	弟妹	経験	友達がいない	邂逅	霧谷雄吾

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	0	2		8
社会	1	0	0			1

HP	30
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志		1	調達	2	
運転：			芸術：			知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	4	1	情報：学問	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アサルトライフル	射撃	8r-1		9		傷だらけ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
研究服	8	1	-	-	【知識：レネゲイド】判定+1DX

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品

ギャランティプラス	
専門書〈知識：レネゲイド〉	
ウェポンケース	
思い出の一品	
とっさのお守り	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
翼ちゃん	P 連帯感	N 劣等感		
詩織ちゃん	P 連帯感	N 不信感		
遊歌ちゃん	P 連帯感	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 9

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
無形の影	1	4-1	メジャー	-	-	-	-	
効果：あらゆる判定を【精神】で行う、1回/1R								
インスピレーション	2	2	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：GMに質問、Lv回/1S								
黄金練成	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：常備化P+Lv×10								
コンセントレイト：ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：C値-Lv								
ギャランティプラス+Rバランサー	2							
効果：財産P+10、無形の影コスト-1								
EF：冷凍保存	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘不能/死亡/自身　冷凍保存								
影絵芝居	★	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果：影を具現化、〈RC〉で対決								
闇夜の烏	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：影に溶け込む								
写真記憶	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：忘れられない								
文書偽造	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：文書偽造、〈RC〉判定								
効果：								
効果：								
効果：								

とあるにてジャーム化治療の研究に勤しむイリーガル研究員。この20年の進歩によって人間とオーヴァードがその垣根を越えてわかりあえる世界なったように、わからないことがなくなっていけばジャームだって人間やオーヴァードともわかりあえるという信念を掲げており、プロファイリングに基づく衝動診断や根本的なジャーム化治療にわたりあらゆるアプローチで双方を隔たる垣根を越えようと日夜研究に励んでいる。その信念が本物であるのか、ジャームたちからの危害や敵意を向けられることは全くなく、本人も彼らに恐れの感情を抱いたことがない。高給取りとはいえレネゲイドに対する高い理解と死のリスクが頭をよぎる研究職も問題なくこなせており、そのコードネームはジャームたちをまとめあげる様から名付けられたと言われている。

少し前までは、ちょっとだけ人見知りをするけれど、ごく普通の真面目で努力家な優等生。ある塾帰りの夜に成人男性ふたりから声をかけられる。「オーヴァードの適性がある」「ウロボロスの因子が含まれている可能性がある」など意味不明の供述を繰り返す彼らに誘拐されそうになるところを同じ学校の生徒に手を引かれ助けられる。不運だったのは手を引いた少女がFHチルドレンと認定されている少女であったことと、彼女自身がいまだ解明の進んでいない「ウロボロス」のシンドロームに本当に覚醒する恐れが本当にあったこと。あいつらになにをされるかわかったもんじゃない。彼女たちの逃避行は3ヵ月半にも及んだ。

結果はご覧の通り。いまだ具体的な影の力を発現しえていない彼女は、UGNが用意した箱庭の中、人工的な安寧のもと、UGNの研究所において引き籠ったまま研究を続けている。研究対象は「ジャーム」という不可思議な能力者の成れの果てについて。その熱意を自分のシンドロームについて向けたならば、経過観察が永久に続くこの檻から彼女を解放する日も来ようが、そんなことはどうだっていい。ひとりではどこにも行けないから。

彼女の能力はレネゲイドウイルスが与える基本的な恩恵の域を出ない。すなわち、ワーディングの無効化、身体能力の上昇、思考力の向上。しかしそのひとつひとつは並のオーヴァードの基礎スペックを凌駕する。スペシャリストの足元に及ぶほどの長所とはなりえないのだが、キュマイラのように襲い掛かりブラム=ストーカーのように銃弾を浴びせハヌマーンのようにレネゲイドを操りソラリスのように口汚く罵る。反復練習の賜物なのか。まるで目の前にある手本を真似るようにして、実戦の場でも使い物になる程度の手技を繰り出すことが可能なのである。まぁ、彼女が専門とする研究分野以外においては器用貧乏に毛が生えた程度の数合わせ要因にしかならないのだが。この地力の高さによってUGNは彼女を過大評価しており、いまだどのような規模の能力を発現するか把握できていないことが彼女を研究所に軟禁している理由のひとつである。